

日 時 令和4年6月29日(水)午後3時00分から4時20分

場 所 習志野市庁舎3階 大会議室

#### 出席者

- 【会 長】 矢坂 英子 (習志野市ソフトボール協会会長)
- 【副会長】 阿川 幸平 (習志野市スポーツ推進委員連絡協議会 副会長)
- 【委 員】 山口 一 (習志野市スポーツ協会副理事長)
- 【委 員】 大沢 亜紀 (奏の杜整形外科院長)
- 【委 員】 河村 剛光 (順天堂大学准教授)
- 【委 員】 杉山 健一 (習志野市小中学校体育連盟副会長)
- 【委 員】 竹田 佳司 (習志野市政策経営部長)

#### 事務局

生涯学習部	部 長	片岡 利江
生涯学習部	次 長	上原 香
生涯スポーツ課	課 長	三橋 智
生涯学習部	主 幹	長谷川 信二(生涯スポーツ課 係長)
生涯スポーツ課	副主査	中村 吉宏
生涯スポーツ課	主任主事	長束 友希央
生涯スポーツ課	主任主事	宮城 利奈
生涯スポーツ課	主任主事	高橋 良介
生涯スポーツ課	主 事	森田 結芽

#### 報告

- (1) 令和3年度生涯スポーツ課主要事業報告
- (2) 令和3年度事業評価について
- (3) 秋津野球場・秋津サッカー場等の再整備基本方針について

#### 会議資料

- (1) 令和3年度生涯スポーツ課主要事業報告
- (2) 習志野市スポーツ推進計画評価シート
- (3) 秋津野球場・秋津サッカー場等の再整備基本方針について

<議事内容>

第1. 会議録作成等

会議録については、要点筆記とし、会議名、会議日程、会議場所、出席者氏名、審議事項、会議内容、発言委員名及び所管課名を記載し、非公開の審議事項を除く記録について、市のホームページ及び市のグランドフロアにおいて公開する。

第2. 会議録署名委員の指名

大沢委員、山口委員とする。

第3. 報告 (1)令和3年度生涯スポーツ課主要事業報告について

【三橋課長】：令和3年度も前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を見ながらの事業を行った1年だった。

令和3年4月時点では、千葉県は「まん延防止等重点措置」の対象地域に指定されており、公共施設はその利用を原則17時まで、既に予約済みの場合は19時までとした利用時間の制限の他、密を避ける対策として人数制限を行いながらの運営が10月3日(日)まで続けられた。

10月4日からは利用時間の制限は無くなったが、3密対策としてシャワー一室や更衣室、東部体育館のトレーニングルームの利用では引き続き人数制限をしたままの再開になった。その後も年が明けた令和4年1月21日から、再度「まん延防止等重点措置」の対象地域に指定され、市主催のイベントの中止が3月末まで続き、会議等もほとんどが中止された。

そのような中でも、定期的な活動は続けることができ、体育館や校庭を使った学校体育施設開放事業と市民スポーツ指導員の地区活動は前年よりも増やすことができた。

しかしながら、不特定多数の人を集めるイベントは中止としたものが多く、全体としては令和3年度もスポーツの推進については厳しい1年だった。以降、かいつまんで説明する。

スポーツ推進審議会では、去年は新しい評価シートの確定と、秋津公園内のスポーツ施設の改修に向けた、「秋津野球場・秋津サッカー場等の再整備基本方針(案)」について審議を行った。

市民スポーツ指導員の全体での自主研修会は中止した。各地区での活動については、新型コロナウイルスの感染防止対策を行いながら、屋外のグランドゴルフや、ラジオ体操など、各地区で工夫をしながら活動を行った。

学校体育施設開放事業は、公共施設は原則17時まで利用としたことから、土曜日の夜間の利用は中止とし、それ以外の時間帯については、新型コロナウイルスの感染防止対策を行いながらの活動を続けることができた。

スポーツ活動奨励金については、全体の申請数は令和元年度より減

っているが、ソフトボール小学生のスーパーガールズや少年ラグビーの京葉ラグビーフットボールクラブなど、全国大会に出場したチームや個人の申請を11件受けた。

スポーツ協会への支援は継続して行った。習志野市スポーツ協会に加盟する33団体のうち、20の団体が市民総合体育大会を実施した。しかし、8月後半から新型コロナウイルスの感染拡大傾向があったため、剣道や柔道等の室内競技の他、屋外でもこの時期に開催を予定していた陸上競技等の合計13の団体が開催を見送った。

スポーツ施設の整備では、老朽化によりライトの落下の危険性があったため、第一カッター球場の照明塔6基の撤去について、9月に行われた第3回市議会にて補正予算を上程し、12月以降の養生期間に合わせ、利用に影響が出ない日程で工事を行った。

その他、国の新型コロナウイルスの感染防止対策の臨時交付金を活用し、スポーツ施設にあるトイレ等の水栓を非接触型の物への交換工事を行った。

【矢坂会長】：事務局から説明があったが、意見はあるか。

【一同】：意見なし。

【矢坂会長】：意見がないようなので次に進める。

### 第3. 報告 (2)事業評価シートについて

【矢坂会長】：続いて(2)令和3年度事業評価について事務局から説明をお願いします。

【中村副主査】：「報告事項(2)習志野市スポーツ推進計画の令和3年度事業評価」について、御報告申し上げます。

現行の計画に位置付けられた評価シートは全部で45ある。当該評価シートについては、当審議会に本日、報告した後、御意見を各担当課へフィードバックし、今後の事業推進に活用してもらいたいと考えている。

令和3年度についても、令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた年となった。

令和3年度の評価については、令和元年度の数値を基準値とし、その基準値との比較から算出したものとなっている。

資料1事業評価まとめからは、令和2年度、3年度と経年で各課の評価の変化がわかるようになっている。令和2年度は中止した取り組みが、少しずつ実施されていること、C評価だったものがB評価に、B評価だったものがA評価にと、取り組みが上向いてきていることがわかる。

令和3年度に中止した取り組みのほとんどが新型コロナウイルス感染

症の影響によるものであり、今年度は更に各課の取り組みが上向いていくことが予想される。

資料2は、スポーツ推進計画を推進するための「する・みる・支える」の3つの施策ごとに、各施策がどのような評価になっているかを集計したものである。

中止となった取組みもCの評価として計上している。全体としては、まだC評価の割合が高い。特に、柱2「みるスポーツの推進」については、施策6、7共にイベントの中止や、観客の人数制限を行っての実施となったこと、柱3「支えるスポーツの推進」の施策11も同様に人数制限や事業の中止があったことから、評価としては厳しい結果となった。各施策とも、改善が図られるものと期待している。

引き続き、この評価シートでの評価を行う、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度も連続してC評価が続いた場合、目標値の見直しを含め担当課と確認していく。

また、この資料2では施策ごとの進捗状況が明らかになった。どの施策の進捗が遅れているのか、この資料で全体の進み方が把握できるようになったので、本日の会議後、各課で課題を把握してもらい、担当者が変わった場合でも、取り組みが確実に推進されるよう周知していく。「報告事項(2)令和3年度事業評価」については以上である。

【矢坂会長】:事務局から説明があった報告について、意見、質問を伺う。

【河村委員】:令和2年度より数値が上がったとあるが、コロナ前と比べるとまだ数値は低いままなのか。

【矢坂会長】:事務局いかがか。

【三橋課長】:コロナ前、令和元年度の数値が基準値となっている。コロナ前と比べるとまだ数値が低いのでC評価となっているものが多い。

【矢坂会長】:他にあるか。竹田委員。

【竹田委員】:徐々に活動再開をされてくる中で、来年度以降、C評価が徐々に少なくなっていると思われる。C評価になったものについては、原因を追究するような検証をお願いしたい。

また、C評価が続いたものについては目標値の見直しを含めて各課と協議することなので、ぜひそのような取り組みを期待する。

総合型地域スポーツクラブの会員数減少の問題があるが、何か支援や方策はあるか。

【三橋課長】:昨年度から、総合型地域スポーツクラブの代表者で話をしているが、その中で「認知度がまだ低い」という意見が一番であった。その対応として市



のホームページで各団体の活動報告の回数を増やした。

また、各団体に意見を聞き、積極的に情報発信していこうと考えている。

【矢坂会長】:市内3つの総合型地域スポーツクラブがあるが、どのように活動を周知しているのか。

【阿川副会長】:習志野ベイサイドスポーツクラブでは約500名の会員数であるが、新型コロナウイルスの影響で高齢者の活動が行えなくなり、会員数が減ってしまった。高齢者はコミュニケーションを求めて参加してくるので、今後ホームページやチラシでPRしていきたい。

【矢坂会長】:現在の会員の年齢層はどうか。

【三橋課長】:手元に資料がある訳ではないが、以前見た資料では、習志野ベイサイドスポーツクラブは40代50代が多く、習志野中央スポーツクラブと習志野イースタンススポーツクラブについてはほぼ60代、70代である。新しい人を獲得するのが難しい状況がある。

【矢坂会長】:活動時間の工夫があると、いろいろな年齢層が活動できるのでは。

【阿川副会長】:学校開放でも古くから活動している団体が多く、新規団体が入り込める時間がないのが現状。

【矢坂会長】:3つの総合型クラブを上手に利用してほしい。

【矢坂会長】:他にあるか。竹田委員。

【竹田委員】:評価の仕方が明確でない。目標値、基準値、実績値評価で今一度検討すべき。

資料38番のスポーツ振興協会への支援については、補助金の金額での評価ではなく、市民がどのようにスポーツに取り組んだのかを評価できるほうが良い。

資料42番、施設予約システムの充実については市民の要望、職員の要望と混在していて分かりにくい。

資料45番、ウォーキング等の環境整備については何mきれいにしたかではなく、どのような方にどれだけ使われたかを評価したい。

ぜひ目標と、評価の考え方については、今一度研究をしてほしい。

【矢坂会長】:スポーツ振興協会についての話も出たが山口委員どうか。

【山口委員】:スポーツ振興協会は、体操、水泳、陸上運動など多種目、多年齢の事業を行っている。皆楽しそうに活動している様子を耳にしているので続け

て行ってほしい。

【三橋課長】:ご意見参考にし、改善していきたい。

【矢坂会長】:他にあるか。阿川副会長。

【阿川副会長】:資料34番、健康づくり推進員の育成・活動支援の課題で、養成講座を行ったが、登録取り消し者もいるとのこと、どういったことから取り消しになったのか。

【片岡部長】:簡単にできるだろうと思っていたが、実際に教える立場になるというところで躊躇し、養成講座生が自分から辞退されたとのこと。

【阿川副会長】:総合型地域スポーツクラブの種目責任者についても同じようなことがある。

【竹田委員】:資料7番スポーツ推進エキスパート事業、8番体力・運動能力の向上に向けた指導の推進について、評価表が3年ぐらい変わっていない。スポーツエキスパートを有効活用して、クラブ活動がどうだったか、大会でどういう成果が上がったかというところを評価したほうがよい。

【矢坂会長】:この二つに関して、指導者の拡充が必要になってくると思うので、その辺をどのようにするか考えて行く必要がある。

【矢坂会長】:その他あるか。杉山委員。

【杉山委員】:部活動については、地域移行という言い方が正しいかわからないが、学校体育、社会体育がより密接に土壌を作っていかなければならない。

特に中学校の大会等は協会と、小中体連が連携して行ってきた土壌がある。こうした土壌をうまく使いながら、互いに連携の度合いを高めて子ども達のスポーツ環境を整えていく必要がある。その視点を取り入れ、教育委員会内で議論を深めてほしい。

資料8について、新体力テスト結果から、勤務校でも体力の低下が見られている。コロナ禍で走ることが不足し、50メートル走でいえば1学年分記録が落ちている。

今年度になって、少し運動ができる環境増え、子ども達も動き出してきたのだが、足首の捻挫が多いと感じる。子ども達の体力については学校からの声を拾い、新型コロナウイルスの状況を加味しながら検証していかなくてはならない。

【矢坂会長】:学校体育、社会体育が協力し合い考えていってほしい。

【矢坂会長】:その他あるか。河村委員。

【河村委員】:部活動の地域移行がキーワードになっている。担当が指導課になるのか。トップアスリートや地域のチームのアスリートとの連携や総合型地域スポーツクラブ、市民スポーツ指導員などいろいろな受け皿が考えられる。生涯スポーツ課としてもどのように関わっていくのか考えていただきたい。

【三橋課長】:部活動の地域移行は、教員の働き方改革という部分があるが、教員が全く離れることができるのかということ整理してから進める必要がある。その後、地域にどれだけの人材がいるかを確認することになる。地域移行だけ先行しないよう慎重に動いているところである。

【矢坂会長】:まず受け皿をしっかりと、子ども達がよりよい環境の中で運動等できれば一番よい。今日の皆さんの意見を参考にして、きちんと教育委員会の中で揉んでもらい次に進んでいってほしい。よろしく願いたい。

### 第3. 報告(3)秋津野球場・秋津サッカー場等の再整備基本方針について

【矢坂会長】:それでは(3)秋津野球場・秋津サッカー場等の再整備基本方針について、長谷川主幹、説明をお願いします。

【長谷川主幹】:秋津野球場及び秋津サッカー場について、市民にとって安全性と利便性の高い施設とし、市民の利用機会を拡大するため、本年3月30日に開催された、習志野市、教育委員会会議において、秋津野球場、秋津サッカー場等の再整備基本方針が決定されたので、報告をする。

方針策定の目的は、秋津野球場、サッカー場を一定規模の大会ができる機能を維持することはもちろん誰もがスポーツを楽しむことによって、心身ともに健全になり、健康の維持増進、体力向上を図り、豊かなスポーツライフを実現する施設とすること。

また、秋津野球場、秋津サッカー場を本市のスポーツ振興のシンボルとし、市民のほか、市外からも多くの人を訪れ、交流する施設を目的とする。

再整備の方針については、目指すべき秋津公園内スポーツ施設像を、「オール習志野で実現するスポーツが生み出す多世代の交流拠点」とする。

施設目標は、「する」スポーツ、「みる」スポーツ、「支える」スポーツの象徴となる施設とすること。地元の企業や団体が定期的にイベントを開催するなど、オール習志野で盛り上げる施設とすること。施設の利用者層及び利用用途を広げ、施設の利用機会拡大を図るとともに、収益性を高め、持続可能な施設とすること。市民のみならず、市外の人

気軽に訪れる施設とすることである。

整備の概要としては、野球場及びサッカー場の老朽化対策と、グラウンドの人工芝化を行う。グラウンドの天然芝を人工芝に変更することで、1日に複数試合することや、練習での利用も可能とすることにより、野球場の利用が1.5倍に増え、サッカー場の利用が、3倍に増えることを見込んでいる。このことが、本方針の最大の効果であると考えている。

再整備後の秋津野球場、秋津サッカー場は、現在の利用に加えて、スクールや教室、練習での利用、サッカーや野球以外の種目での利用を認め、使用制限を最小限に抑えることで、多世代の市民が施設を訪れ交流するよう運営する。

前回の会議で、近隣住民やスポーツに関わっていない市民の利用について、意見があったため、内容を充実した。

施設の地域限定開放日を設定するなど、近隣住民に向けた新たなサービス拡充を検討し、地域住民に親しまれる施設へ生まれ変わるとともに、施設の活性化に伴う騒音及び渋滞への対応も強化、徹底する。

また、災害時等に避難者が安心できる機能設置を検討する。

資料の説明は以上である。

今後については、本方針に基づき、事業化に向けて、事業手法や整備内容を引き続き検討して参る。

なお、本方針中に記載されている秋津サッカー場の天然芝について、2月15日付で習志野市サッカー協会会長などから、習志野市市議会議長へ、天然芝維持を求める陳情が提出されたが、3月議会及び6月議会で審議され、不採択となった。

報告は以上である。

【矢坂会長】:事務局より説明があったがいかがか。阿川副会長。

【阿川副会長】:配布資料に人工芝のデメリットとして環境への配慮が必要とあるが、具体的にはどんな対策をするのか。

【長谷川主幹】:切れにくい素材の人工芝を選択していくこと、ゴムチップの流出を防ぐことである。本施設の整備の時にも取り入れるなどを工夫していく必要があると考える。

【大沢委員】:再整備は何年かけて行うのか。

【長谷川主幹】:具体的な事業スケジュールに関してはまだ決まっていない。

【大沢委員】:大体いつ頃決まるのか。予算はあるのか。

【長谷川主幹】:未定である。予算要求もこれからになる。

令和4年度 第1回習志野市スポーツ推進審議会 会議録

【竹田委員】:市の計画は、総合計画があって基本計画があってという中で、今習志野市基本計画が令和7年まで、既存計画が動いている。  
つまり7年以降ということになる。大規模改修は8年以降におそらくなる。

【矢坂会長】:何か質問はあるか。なければ次回の会議の予定を課長お願いする。

【三橋課長】:次回の会議について説明する。

本日の会議は令和4年度最初の会議であったが、同時に、現在の任期の最後の会議でもあった。委員の任期は今年の10月31日まで。後日、委員には更新のご意向等を確認させていただく。よろしくお願ひしたい。

【矢坂会長】:次回の審議会は、令和4年11月9日水曜日の15時から、場所は本日よりと同じ市庁舎、3階大会議室の場所になる。よろしくお願ひしたい。以上。  
これをもって、令和4年度第1回スポーツ推進審議会を閉会とする。

会議録署名委員 大 沢 亜 紀

会議録署名委員 山 口 一

